横浜市中央図書館における
ヤングアダルトの利用実態とその特徴

鐵見 咲希

現代日本におけるヤングアダルトは、「学習」と「社会や人とのつながり」にかかわる課題を抱えている。このような現状を受けて、政府もこども家庭庁の発足やこども基本法の施行などの対策を講じてきているが、ヤングアダルトが社会においてどのような環境にいるかはいまだ不明瞭である。欧米の公共図書館では、ヤングアダルトには他の利用者と異なるアプローチの必要性が指摘されており、彼らの行動様式である HOMAGO に基づいた空間とサービスが展開されている。日本でも現代のヤングアダルトが抱える課題に取り組むために、彼らの行動様式を調査することで、ニーズを把握し、理解することが求められる。

本研究の目的は、横浜市中央図書館を事例として取り上げ、横浜市のヤングアダルトを取り巻く環境や課題、横浜市における中央図書館の位置づけと政策との関わりを詳述したうえで、横浜市中央図書館におけるヤングアダルトの利用実態と特徴を解明することである。

研究方法は横浜市、横浜市中央図書館を事例とした事例分析である。第一に、横浜市におけるヤングアダルトを取り巻く環境とその特徴や課題を明らかにするため、横浜市の政策文書と CiNii Research により収集した関連文献を精読した。第二に、横浜市の政策と横浜市中央図書館の目標・計画の関わりを明らかにするため、MAXQDA を用いた質的内容分析を行った。第三に、横浜市中央図書館を利用するヤングアダルトの実態を明らかにするため、ヤングアダルトの利用行動や所持品を観察する 9 日間の観察調査を実施した。

研究の結果、横浜市のヤングアダルトは行政・民間企業・団体・市民による地域一体となった見守りと支援を受けているということが明らかになった。教育面では「個別最適化された学習」に注力しており、その一環として ICT 機器を用いた学習環境が整備されていた。

横浜市中央図書館は、横浜市において「教育・学習」の役割を担っており、学校教育への支援、読書推進、社会活動機会の提供などを通してその機能を発揮していた。また今後は創作活動の機会の提供による STEAM 教育の推進と、ヤングアダルトの居場所、子育て拠点としてその役割と機能を拡充しようとしていた。

観察調査では、横浜市中央図書館を利用するヤングアダルトの多くは個人で学習に取り組んでおり、ICT 機器を用いている姿も見られた。グループで利用する際も主な目的は学習であったが、コミュニケーションを取りながら楽しげに取り組む様子が見られた。また、図書館が読書推進に注力しているのに対し、ヤングアダルトが図書館内で読書を行う様子は多く見られなかった。

今後の公共図書館は、地域の教育施設としてヤングアダルトが自発的に学習に興味を持てるような学習環境を整備し、社会とつながる場所にしていくためにヤングアダルトの特徴を踏まえた更なるサービスの向上が求められる。

（指導教員　小泉 公乃）